
2016年度(2017年3月期) 決算説明会

株式会社ダイヘン

2017. 6. 2



P1

2016年度 (2016年4月～2017年3月)

【 実 績 】



P2

業績サマリー

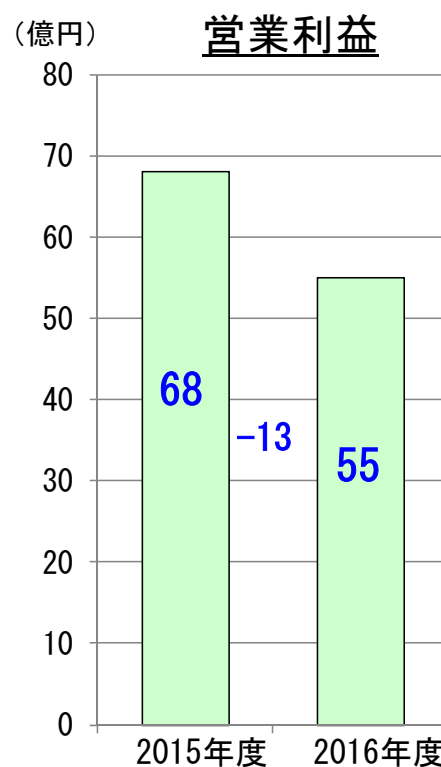
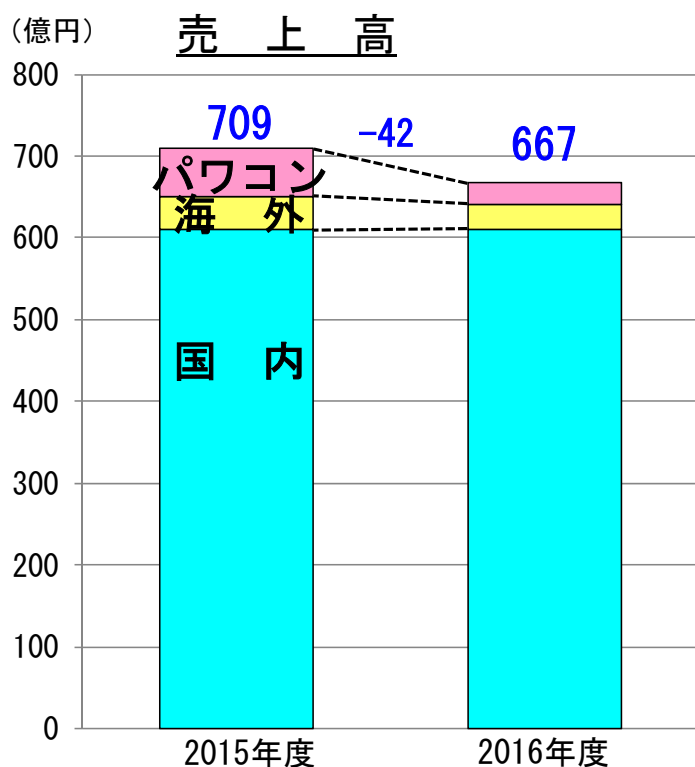
(単位：億円)

	2015年度		2016年度		前年度比	
	実績		実績		増減率	
売上高	1,311	1,348	+37	+2.8%		
1 電力機器	709	667	-42	-5.9%		
2 溶接メカトロ	428	422	-6	-1.3%		
3 半導体関連機器	172	257	+85	+49.0%		
営業利益	7.1% 93	6.5% 87	-6	-6.7%		
経常利益	7.0% 92	6.6% 88	-4	-3.8%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	5.5% 72	4.6% 62	-10	-13.4%		



P3

セグメント情報 1 電力機器

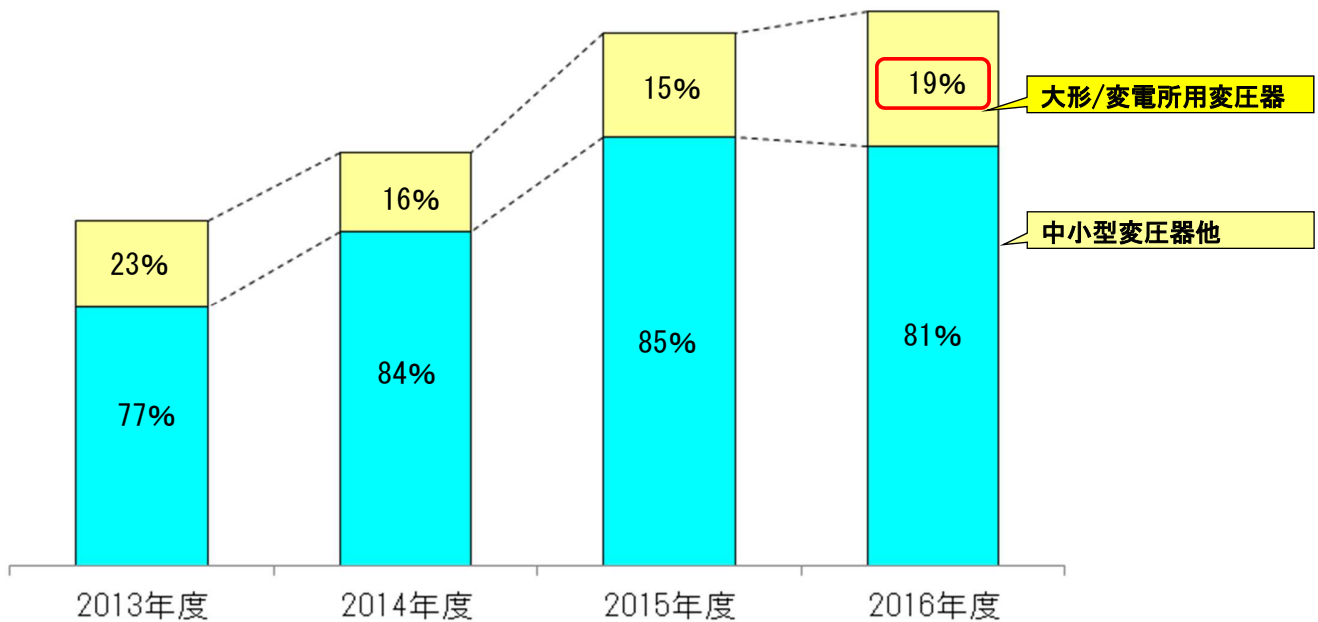


P4

1 電力機器 —国内電力会社—

大形変圧器の更新需要が増加へ

<電力向け機器構成比の推移>

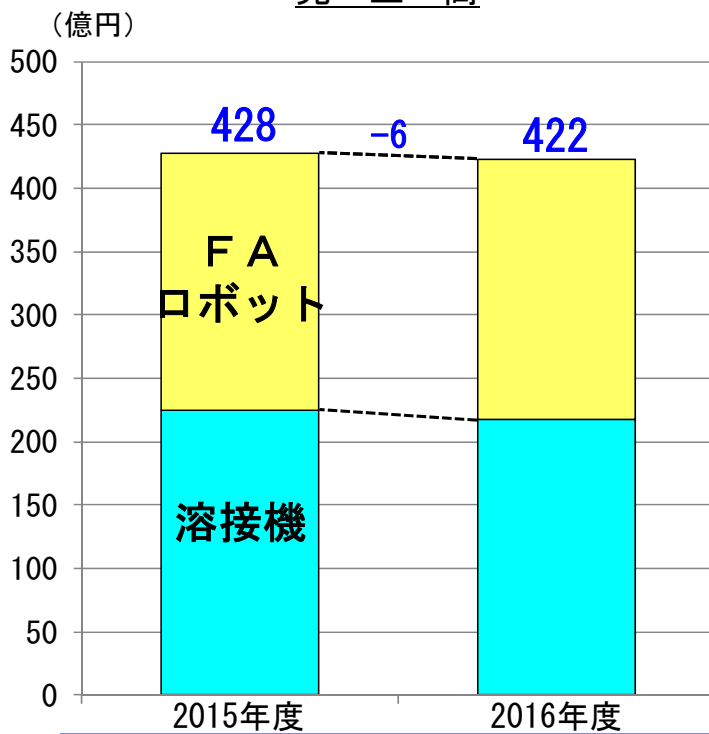


※グラフ内の数値は構成比率

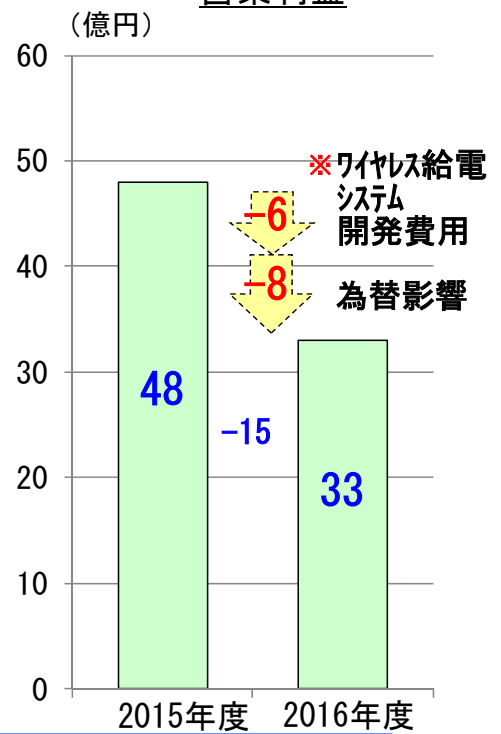


セグメント情報 2 溶接メカトロ

売上高



営業利益



セグメント情報 2 溶接メカトロ

～溶接メカトロ周辺FA分野での製品開発・事業化～



AI 自動搬送ロボット

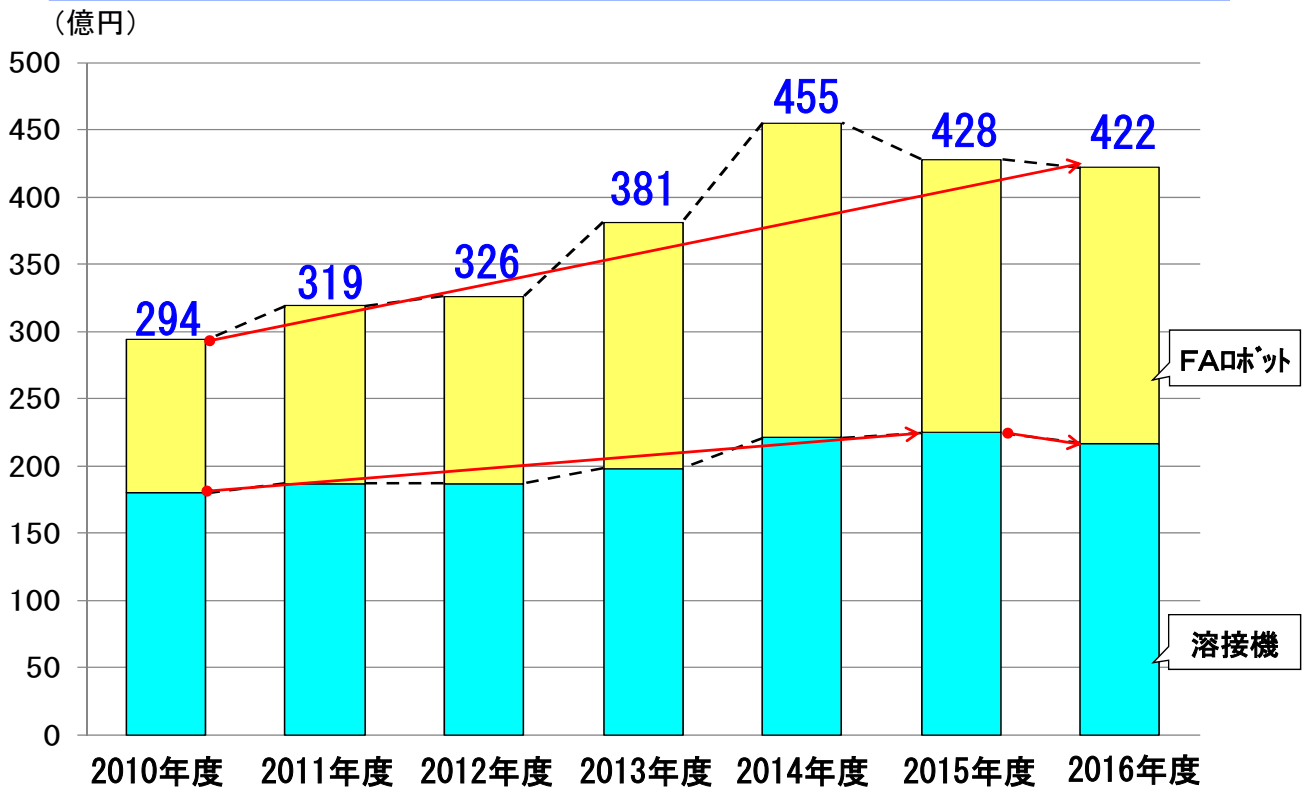


- ワイヤレス給電システム搭載で24時間
- 工場レイアウト情報(+GPS情報)で最適経路を自動選択
- 内蔵カメラ・センサ情報で安全走行
- 可搬重量700kg



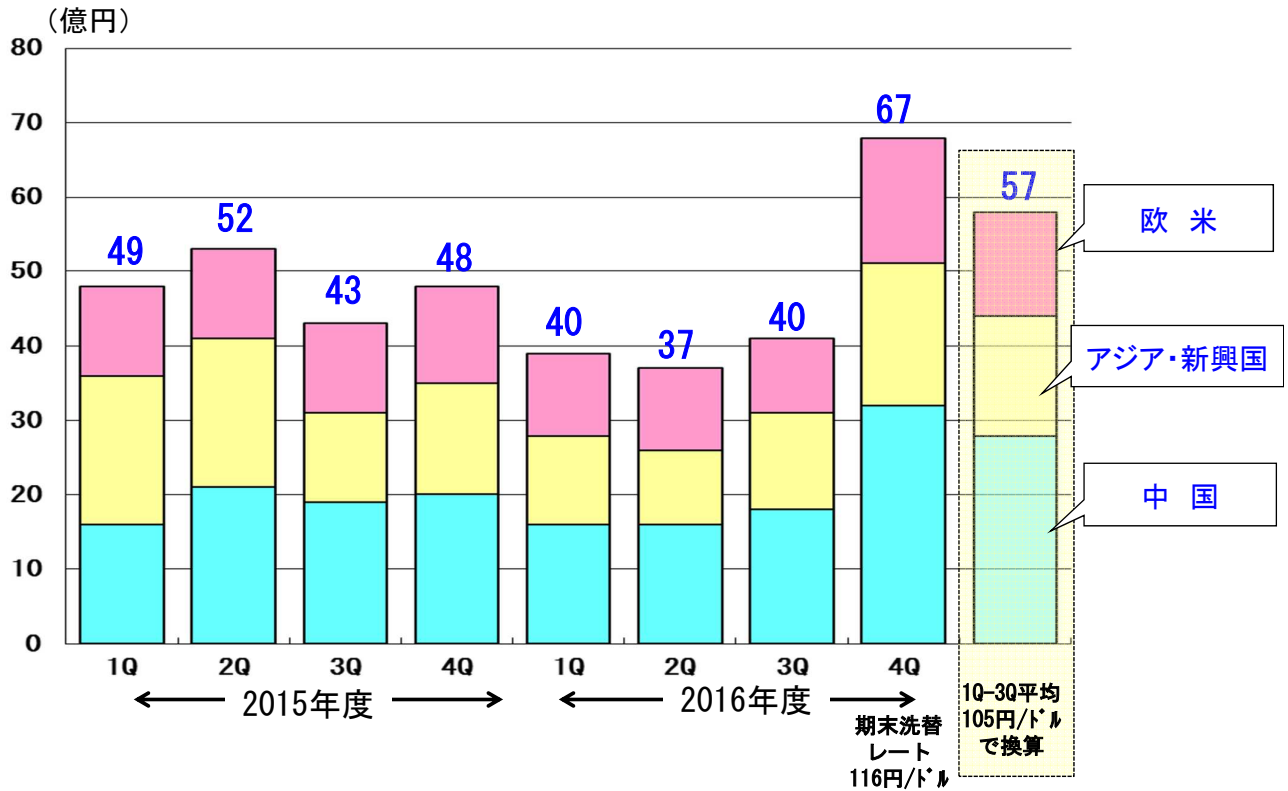
2 溶接メカトロ

溶接メカトロセグメント製品別売上高の推移



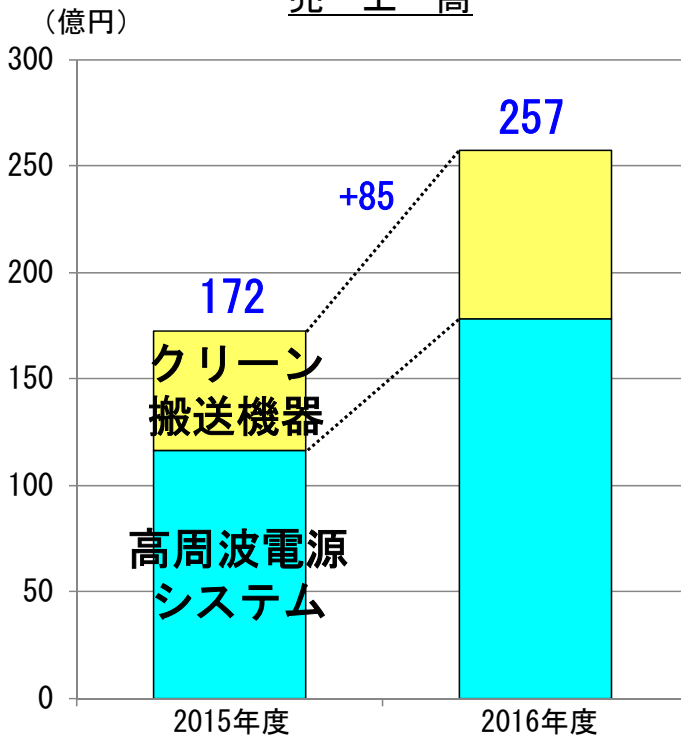
2 溶接メカトロ

海外での販売は第4四半期に急回復（特に中国での自動化投資が好調）

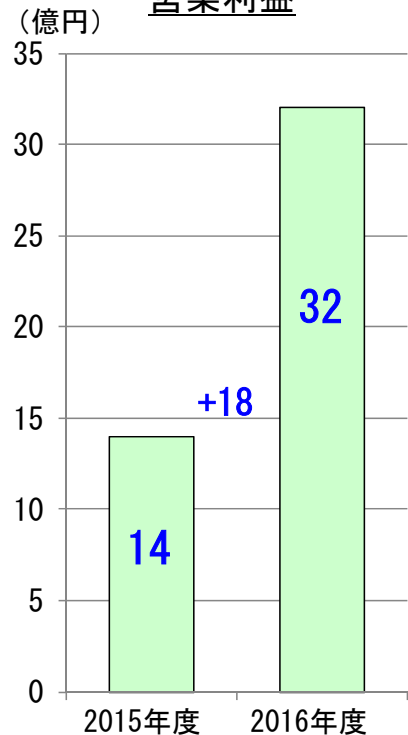


セグメント情報 3 半導体関連機器

売上高



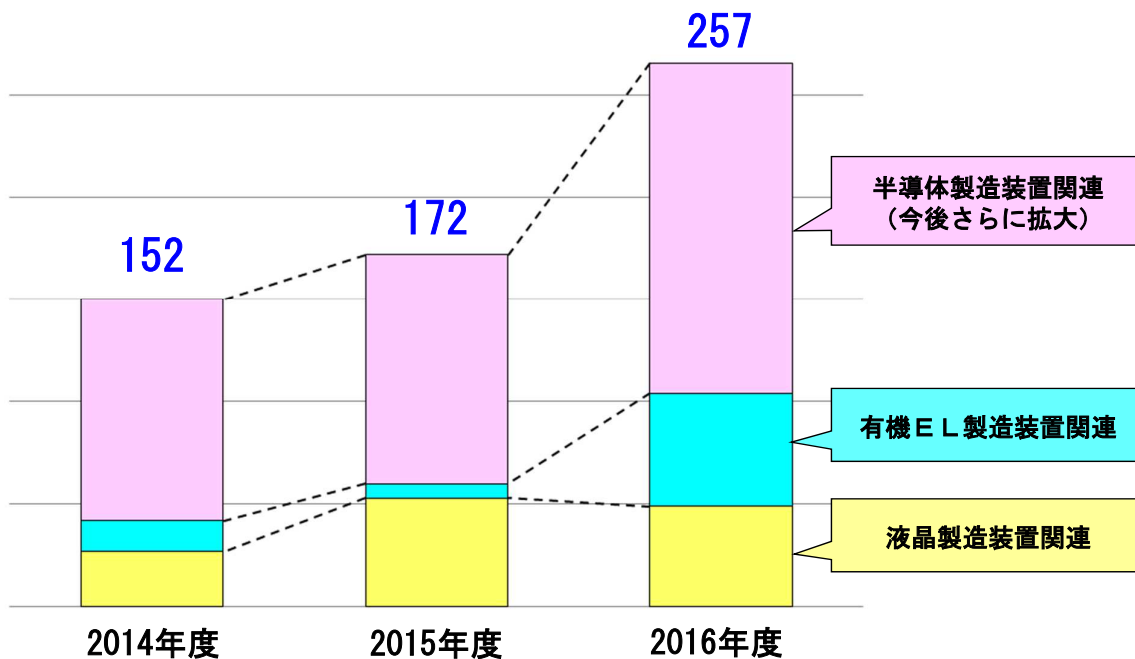
営業利益



3 半導体機器関連

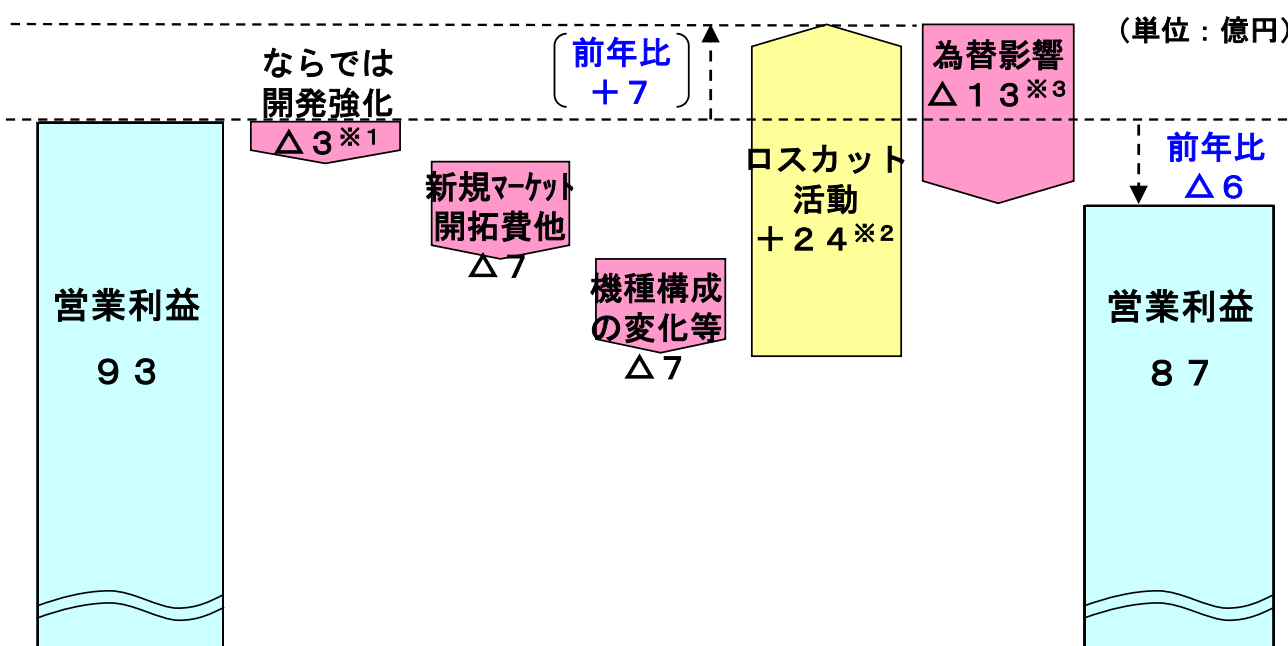
半導体関連機器の売上高は2年連続で過去最高を更新

- 半導体（3次元メモリーやロジック系）及び有機ELの設備投資急拡大が業績を牽引～



P11

2015～2016年度営業利益変動要因



2015年度実績

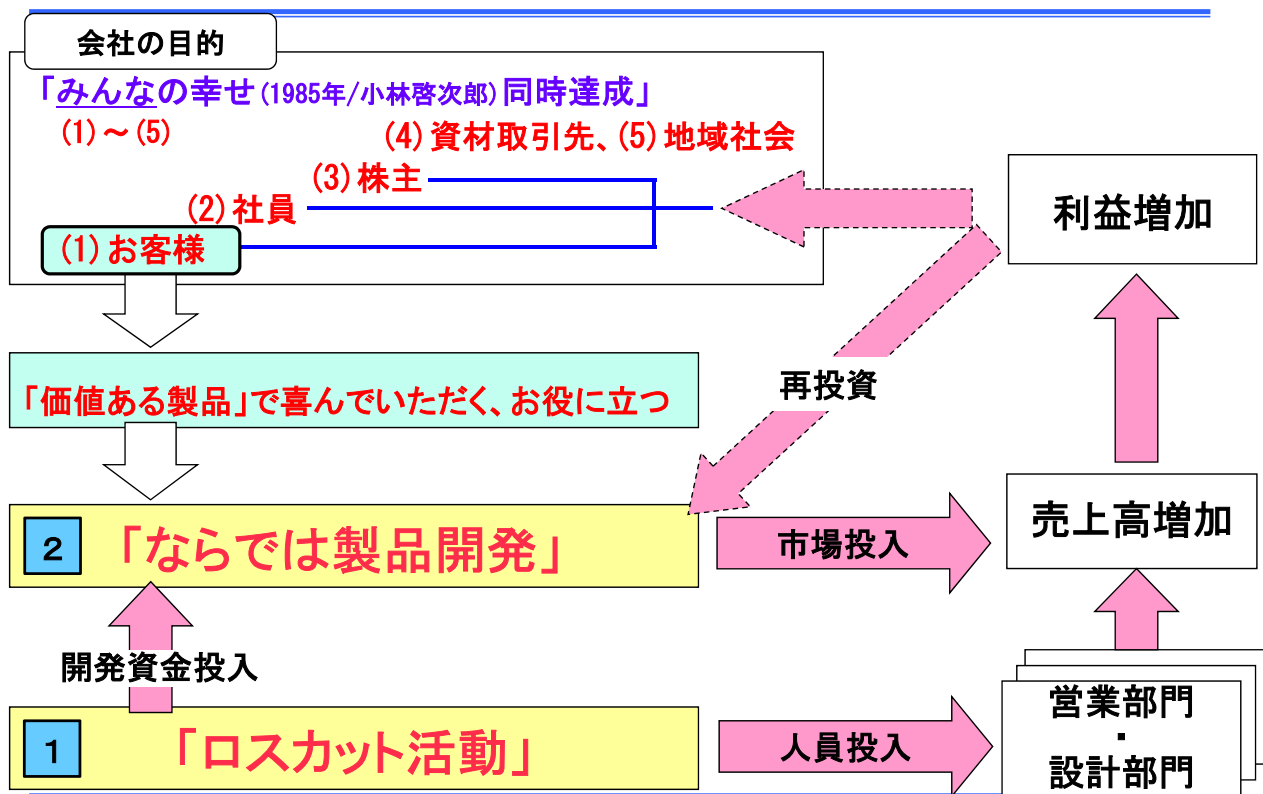
2016年度実績

※1. 開発強化（研究開発費増）：2015年度 51.8億円 ⇒ 2016年度 54.4億円
 ※2. ロスカット活動：2015年度 67億円 ⇒ 2016年度 91億円
 ※3. 為替影響：2015年度平均120円/ドル ⇒ 2016年度平均107円/ドル
 （1円/ドル当りの利益影響額 約1億円）

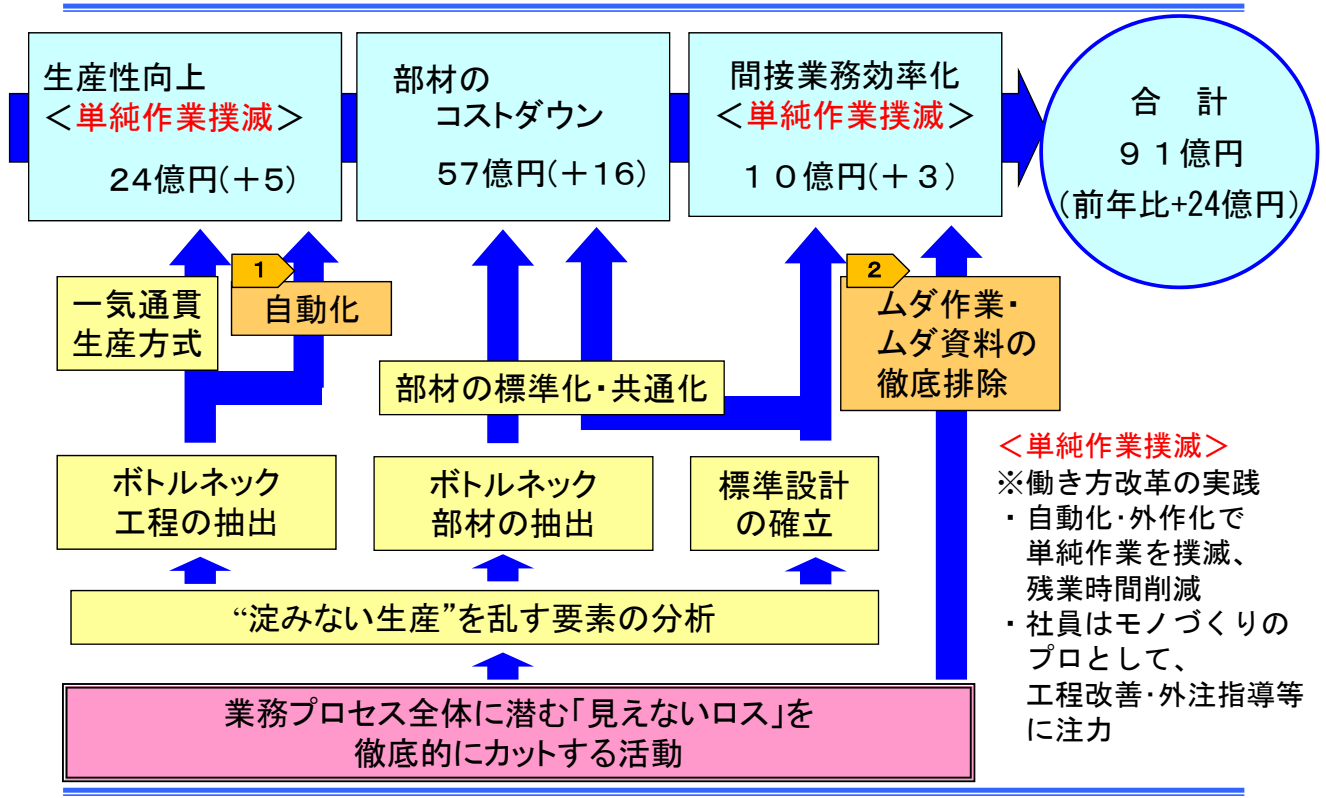
P12

中期的な経営の取り組み方針と 2016年度の成果

中期計画の基本骨子



1 「ロスカット活動」2016年度成果



1 「ロスカット活動＜単純作業撲滅＞」 1 生産自動化の取り組みは“点から線”へ

生産自動化の取り組みを“点から線”へと広げ、成果を拡大

【電力機器製缶工場】材料供給・ワーク搬送と胴板溶接を自動化



自動化率
70%

【ロボット工場(六甲事業所)】ロボットによるロボット製造、
ワイヤレス給電搭載AGV・AGF・AI自動搬送ロボットの活用



自動化率
80%
(2017年6月稼働)



- 1 「ロスカット活動<単純作業撲滅>」
 2 ムダ作業・ムダ資料の徹底排除

■間接業務の可視化・効率化(HIT※活動)の成果

	2016年 削減目標	対象者	当初作業 時間 ①	改善 提案数	改善実施 時間 ②	削減率 ②/①
HIT活動 合計	30%	720人	101万H/年	52千件	31万H/年	30.1%

・業務廃止：3459件、帳票廃止：3144件

□2016年度の成果

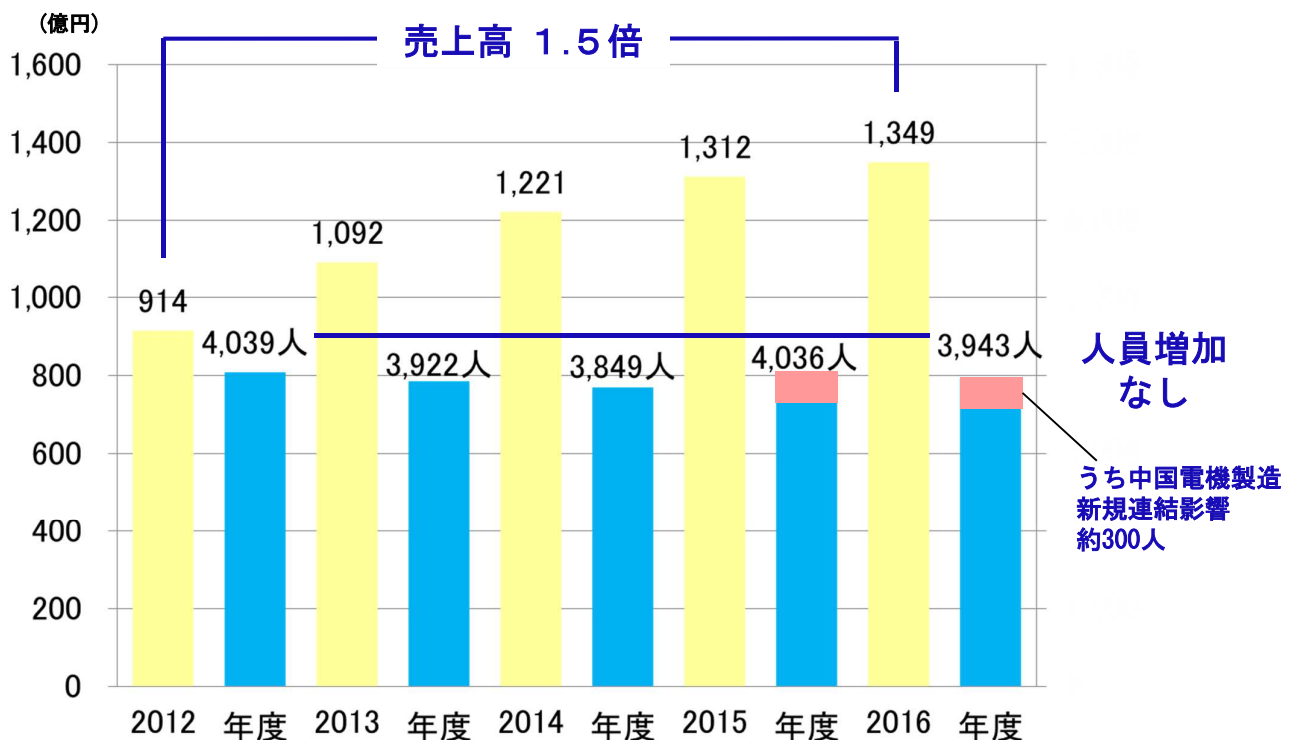
項目	削減額	備考
人材派遣費用	1億円	人材派遣 70人減
時間削減、他	2億円	
計	3億円	

※HIT：Human resource Intelligence Technology

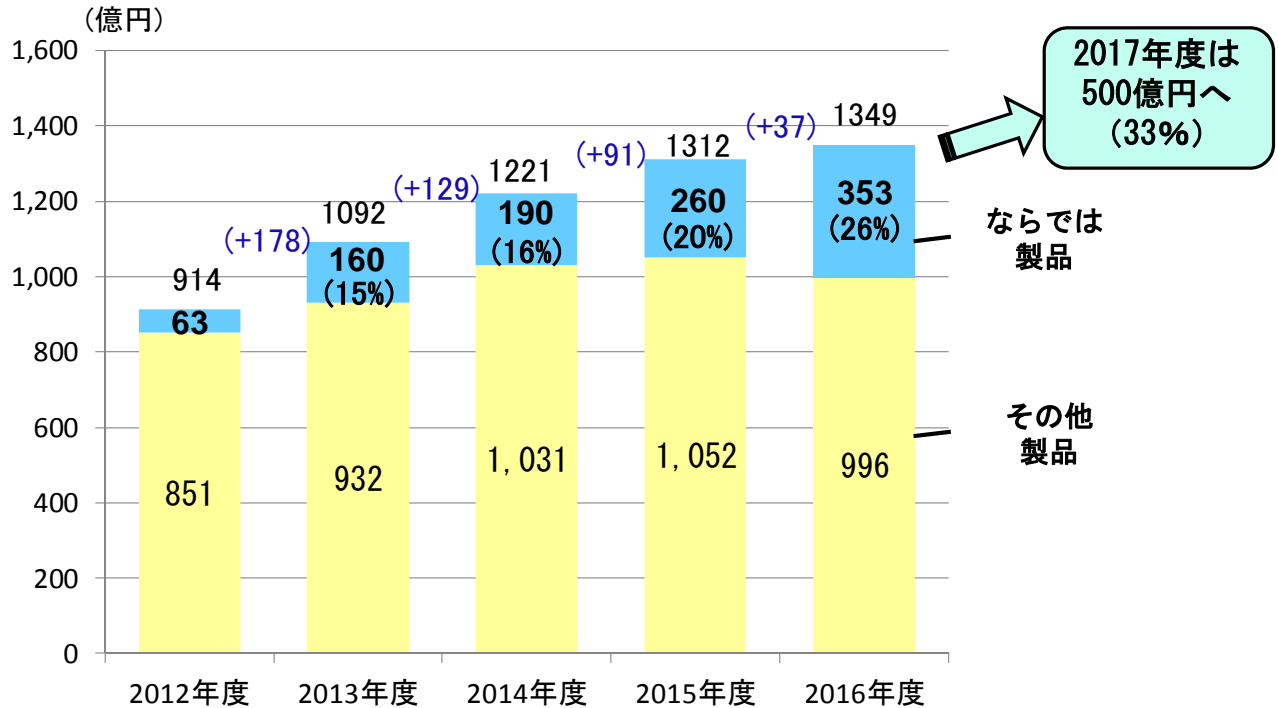
・2016年度に3割削減相当の改善策を抽出済み。
 (後半での改善は成果刈取りには至らず。2017年度以降での成果拡大は確実)



1 「ロスカット活動」の成果
 ～人員増なしで売上高1.5倍に対応～



2 「ならでは製品開発」 ならでは製品が着実に全社売上高拡大を牽引



P19

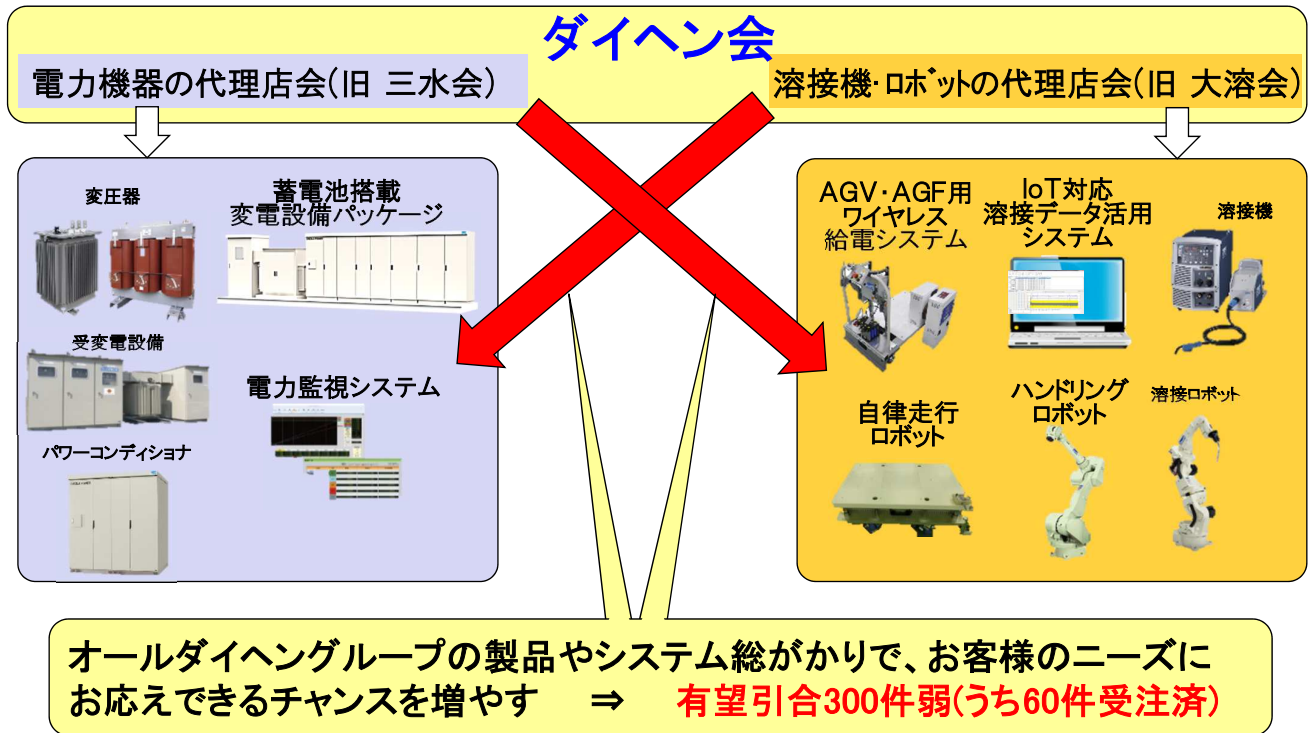
2 「ならでは製品開発」 2016年度販売実績

	2015年度実績	2016年度実績
①スマートグリッド、次世代変電所用変圧器、再生可能エネルギー関連 ・スマートグリッド関連（逆潮流対応電圧調整器、他） ・次世代変電所用変圧器 …自社製真空バルブ式タップ切換器と長寿命がスケット採用でメンテナンスコスト8割削減	160億円	161億円(+1)
②溶接機、FAロボット関連 ・シンクロフィードGMA溶接システム …溶接電源の電流制御とワイヤの出し入れの同期(シンクロ)によりスパッタ極少、ステンレス・亜鉛メッキ・アル材など対応範囲を拡大	36億円	65億円(+29)
③高周波電源システム関連 …微細化加工において高速で変化する装置内の環境にミリ秒単位で追従し、最適な電力供給条件を整える高速整合器や従来比15%消費電力カットの省エネ電源、等	55億円	115億円(+60)
その他	9億円	12億円(+3)
	260億円	353億円(+93)



P20

営業面の取り組み 従来の販売組織では・・・



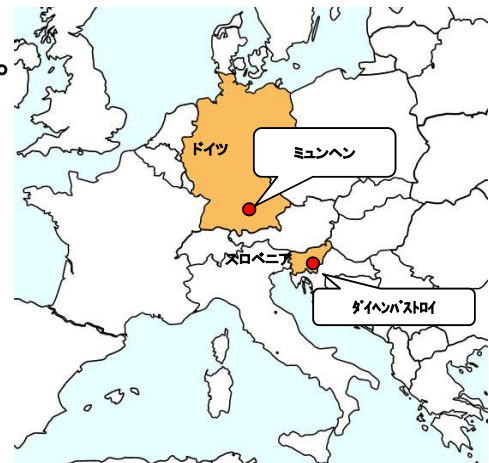
欧州での事業拡大

<2016年度の活動>

- ・ 2016年11月：ダイヘンヨーロッパ社の本店を**ミュンヘン**に移転し、**デモ、ソリューション、サービス・メンテ、即納体制の充実**を図った。



- ・ 大手自動車部品メーカ(10社超)からの新規引合。
- ・ ドイツ南部の受注高10億円超増加。
- ・ 有望なアライアンス候補が数社浮上。



売上高

	2014年 実績	2015年 実績	2016年 実績	2017年 計画	2019年
欧州計	33億円	36億円	35億円	43億円	100億円(シェア10%)

※欧州アーク溶接機市場 720億円 } 約1000億円
 欧州アーク溶接ロボット市場230億円 }

※ミュンヘンは自動車をはじめとした欧州産業の中心であり、ダイヘンバストロイ社からも近い。

2017年度（2017年4月～2018年3月）

【業績予想】



P23

次期業績予想（全社）

(単位：億円)

	2016年度		2017年度		前年度比	
		実績		予想		増減率
売上高		1,348		1,450	+102	+7.5%
営業利益	6.5%	87	6.9%	100	+13	+14.9%
経常利益	6.6%	88	6.9%	100	+12	+12.6%
当期純利益	4.6%	62	4.8%	70	+8	+12.0%

※為替レート想定：105円/ドル・・・前年比2億円の営業減益要因



P24

次期業績予想 (セグメント別)

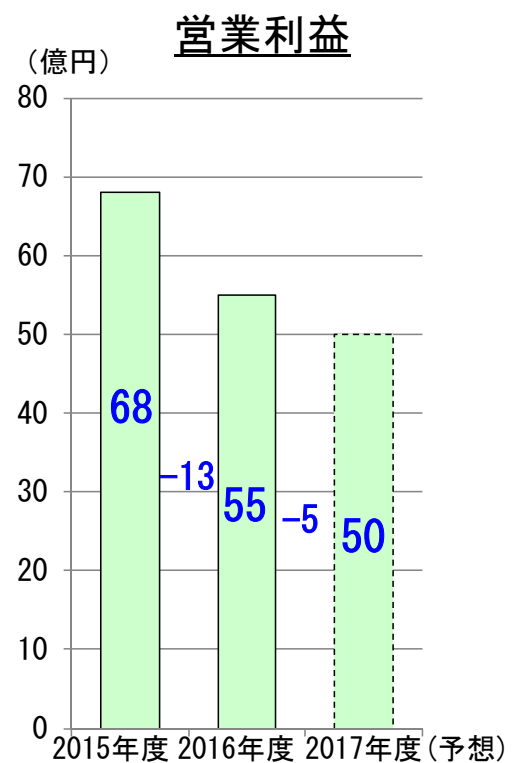
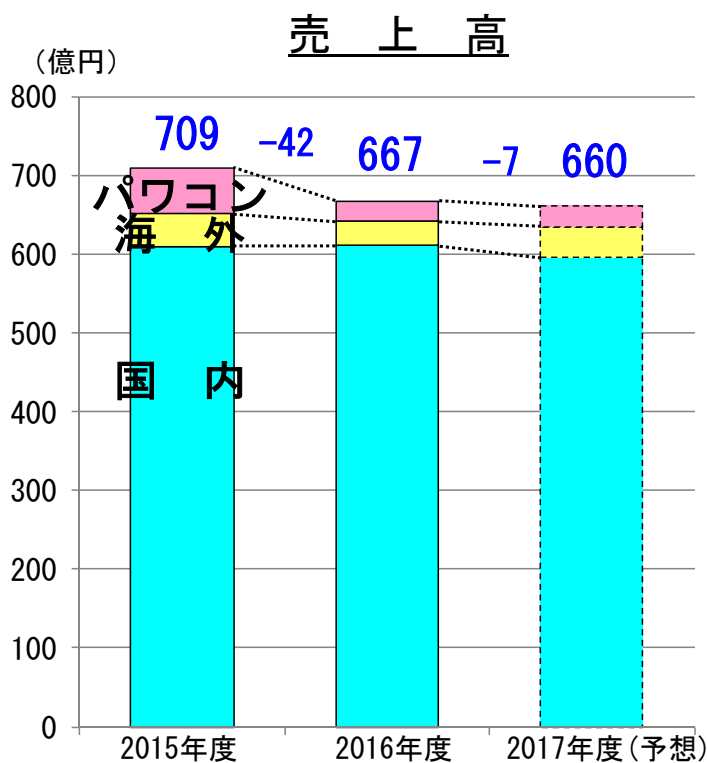
(単位：億円)

		2016年度		2017年度		前年度比	
		実績		予想		増減率	
1 電力機器	売上高		667		660	-7	-1.1%
	営業利益	8.3%	55	7.6%	50	-5	-9.9%
2 溶接 メカトロ	売上高		422		450	+28	+6.5%
	営業利益	7.8%	33	10.0%	45	+12	+36.2%
3 半導体 関連機器	売上高		257		340	+83	+32.1%
	営業利益	12.5%	32	14.7%	50	+18	+55.3%



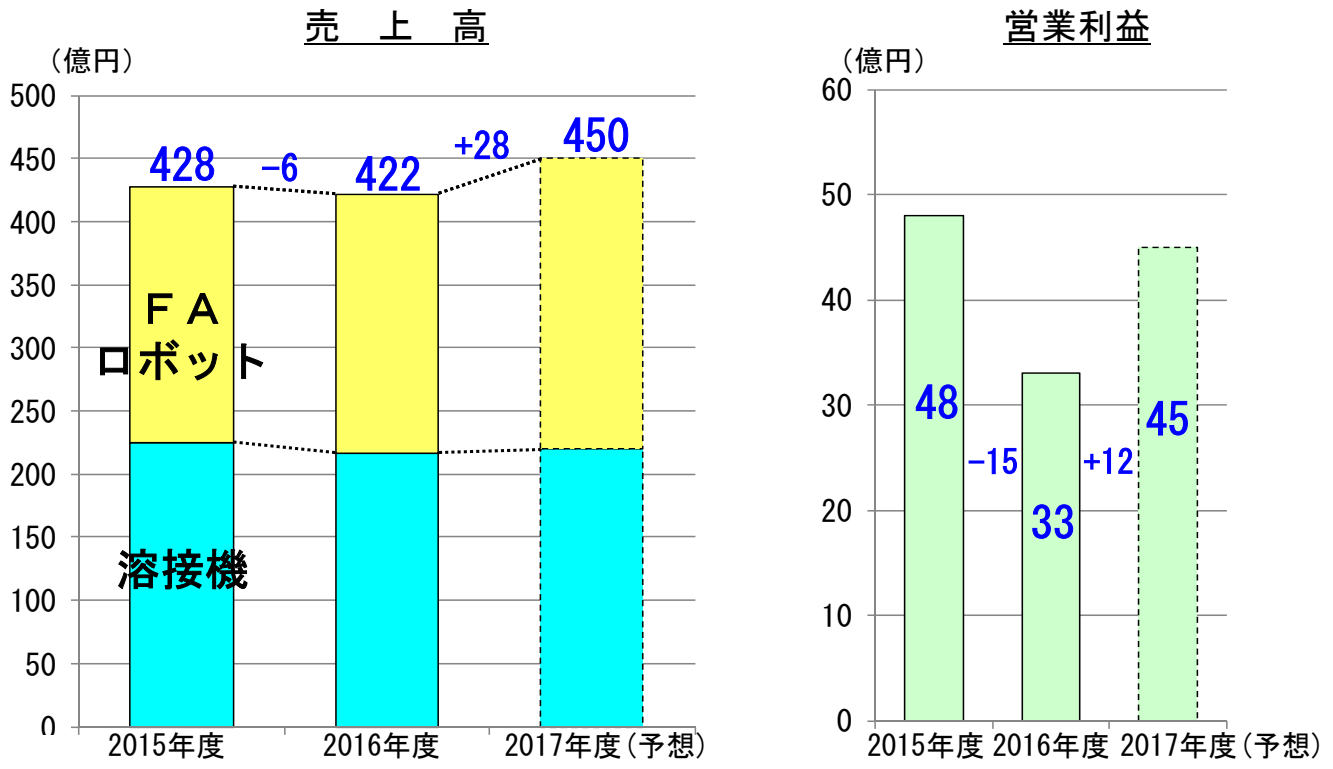
P25

セグメント情報 1 電力機器



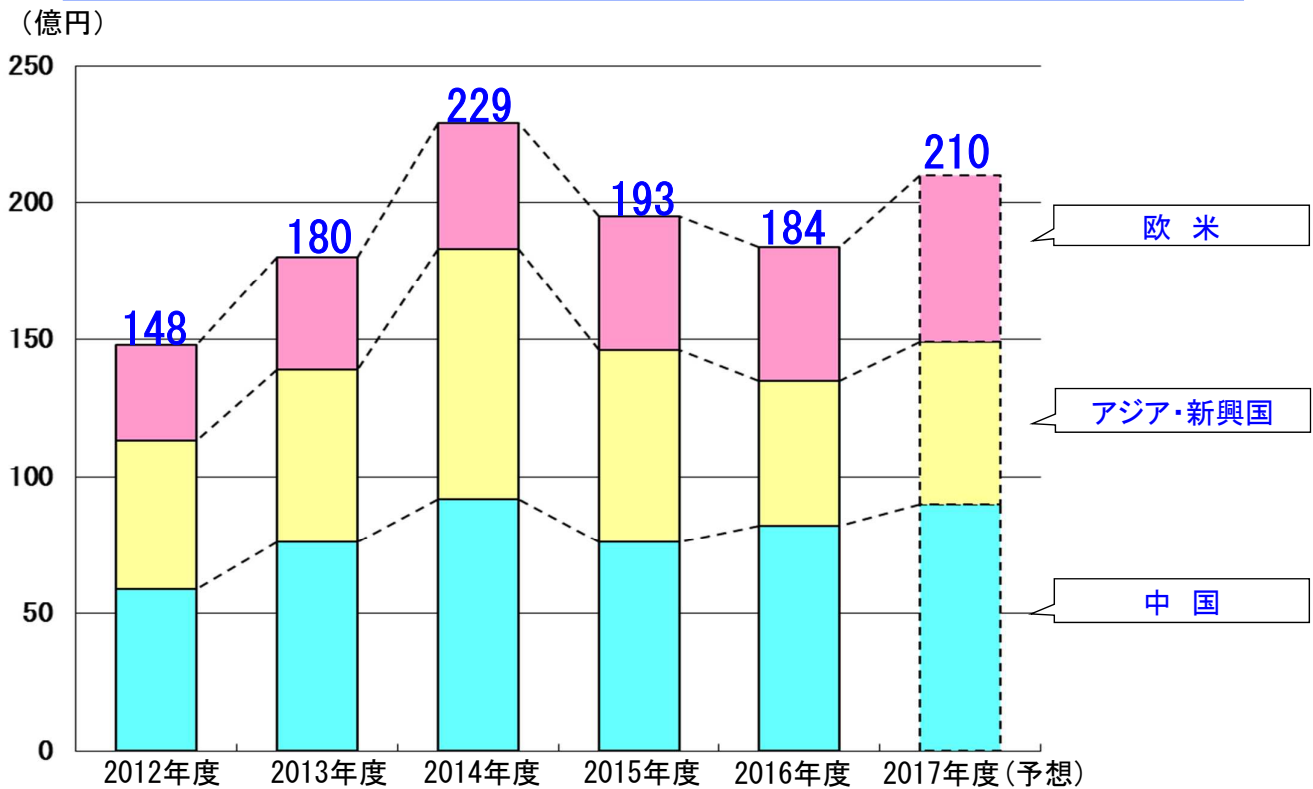
P26

セグメント情報 2 溶接メカトロ



2 溶接メカトロ

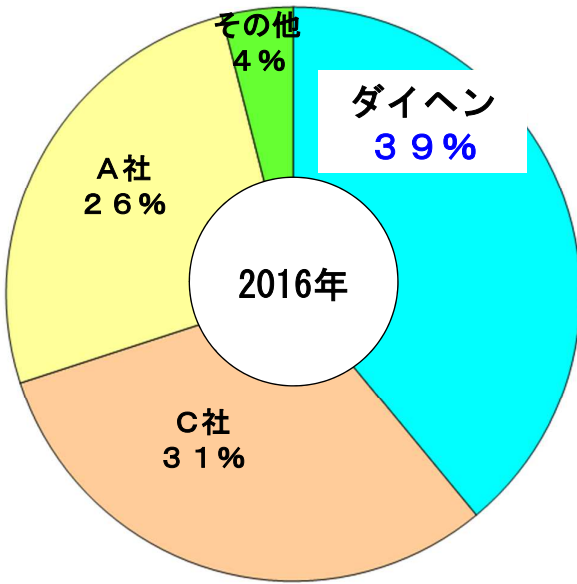
溶接メカトロセグメント海外売上高の推移と予想



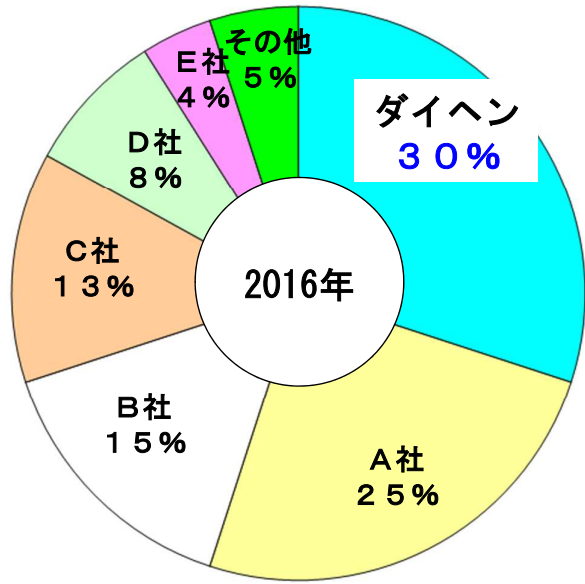
2 溶接メカトロ

アーク溶接ロボットは日本・世界でシェアNo.1

<日本>



<世界>



※【出典】日本：ウェルディングマート2016-7

世界：ロボット工業会、IFRデータに基づく独自想定



P29

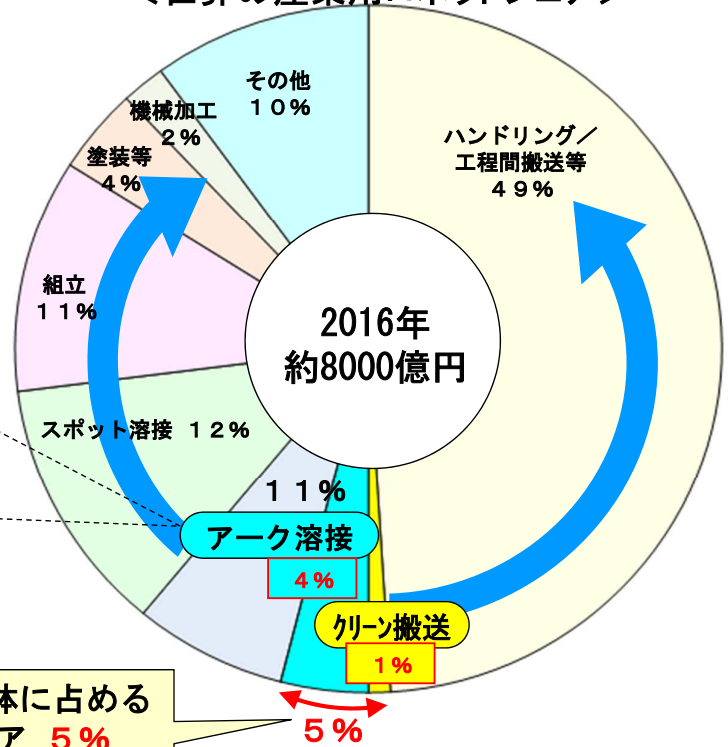
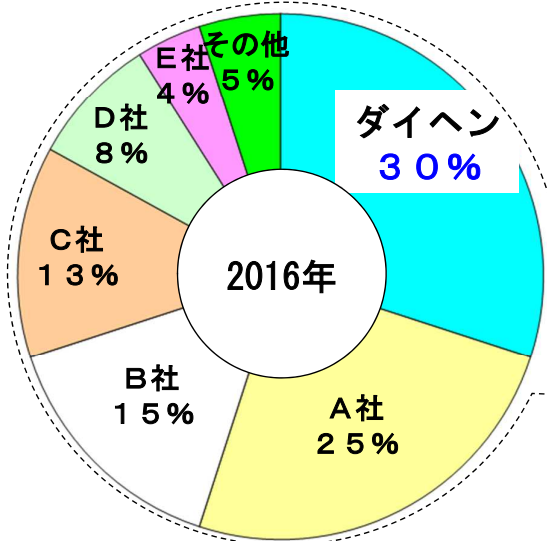
2 溶接メカトロ

アーク溶接ロボットは世界でもシェアNo.1

今後は総合ロボットメーカーとして産業用ロボット全体でのシェアアップを

<世界の産業用ロボットシェア>

<世界のアーク溶接ロボットシェア>



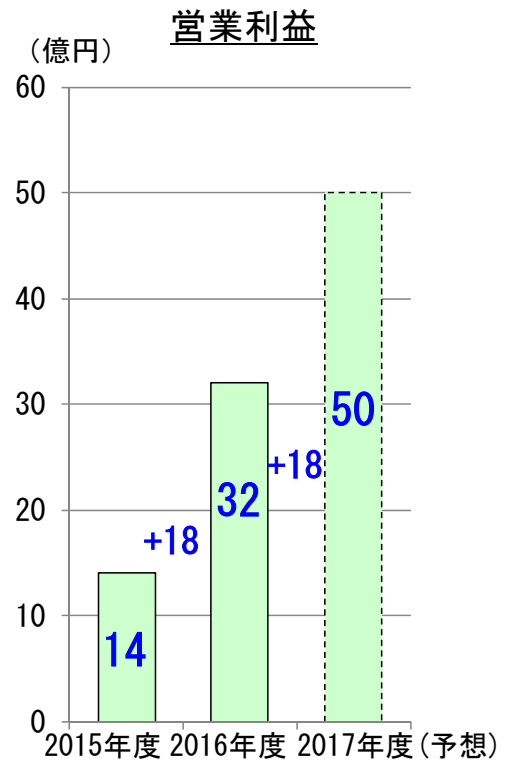
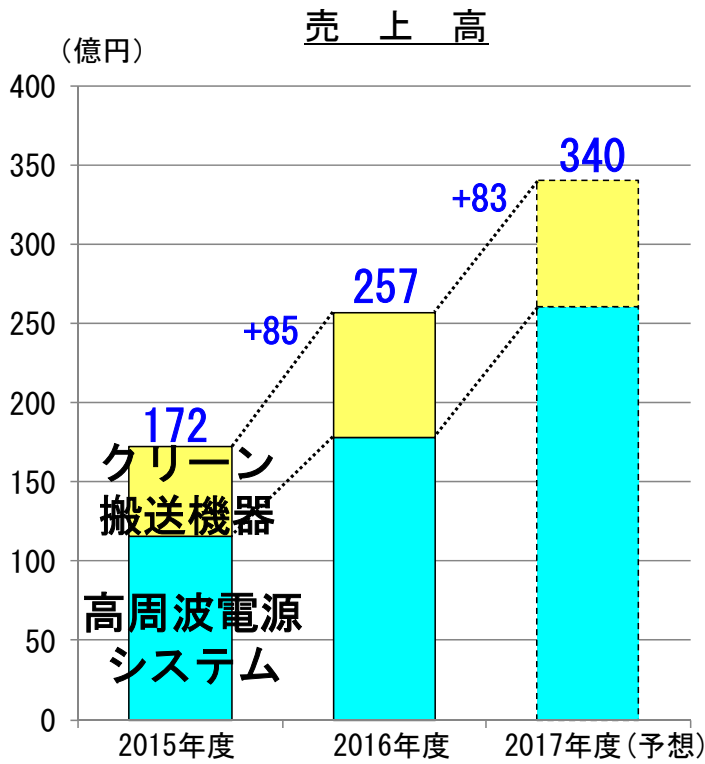
産業用ロボット全体に占めるダイヘンのシェア 5%

※ ロボット工業会、IFRデータに基づく独自想定



P30

セグメント情報 3 半導体関連機器



P31

半導体製造装置に搭載される当社製品

**真空環境用
クリーン搬送ロボット**

**プラズマ発生用
高周波電源システム**

**高周波電源
自動整合器**

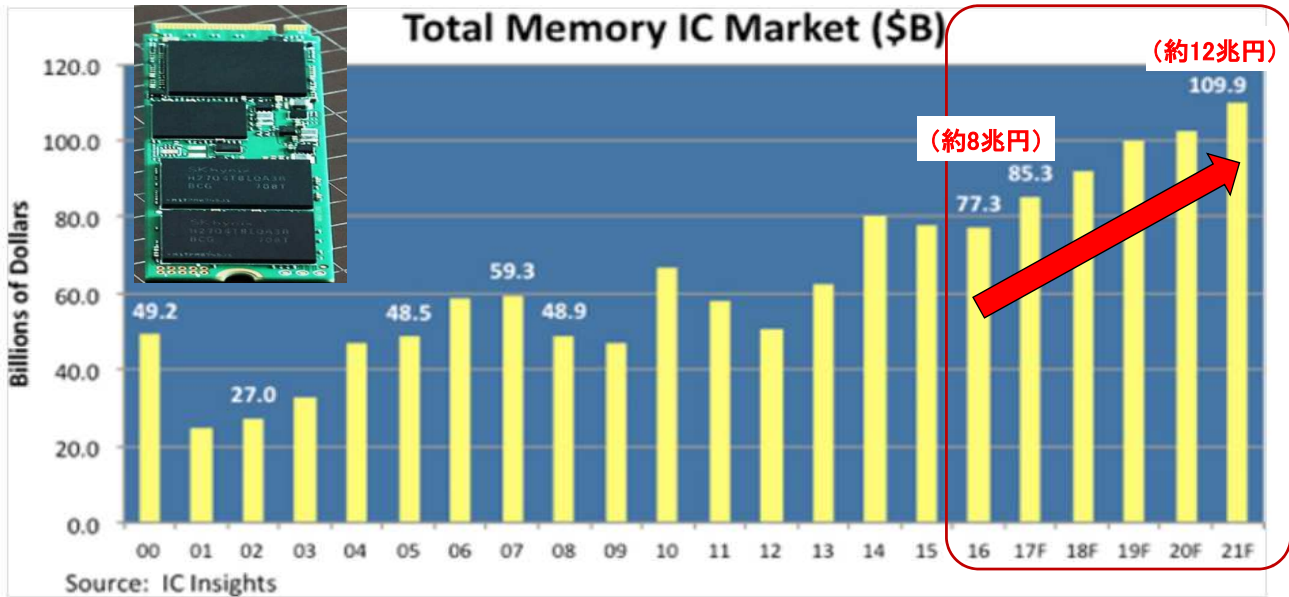
ウエハ 原料ガス 高周波電源 自動整合器
膜 ↓ ↓ ↓
↓ プラズマ
↓ ポンプ排気

半導体エッチング装置



P32

3 半導体機器関連
半導体関連投資は更に拡大

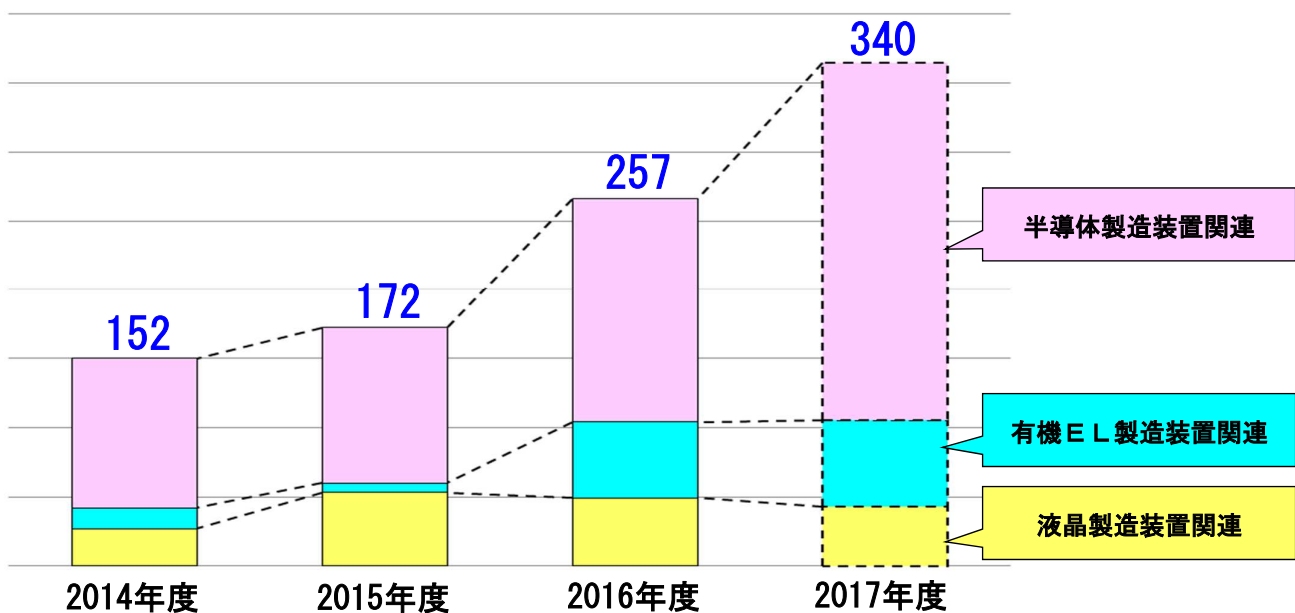


PC/サーバ-用HDDのSSD置換とスマートフォン搭載メモリの大容量化により
市場拡大が続く見通し

～市場伸び率の3～5倍のエッチング装置数が必要～



3 半導体機器関連
半導体関連機器セグメント売上高の分野別推移



高周波電源装置の生産能力を従来比2倍へ引き上げ

- ・ 2016年度に高周波電源の生産拠点での設備増強を行い、生産能力を従来(2015年度)比1.5倍に拡大。
- ・ 2017年度中での追加投資を予定。
生産能力は従来(2015年度)比2倍に引き上げる。

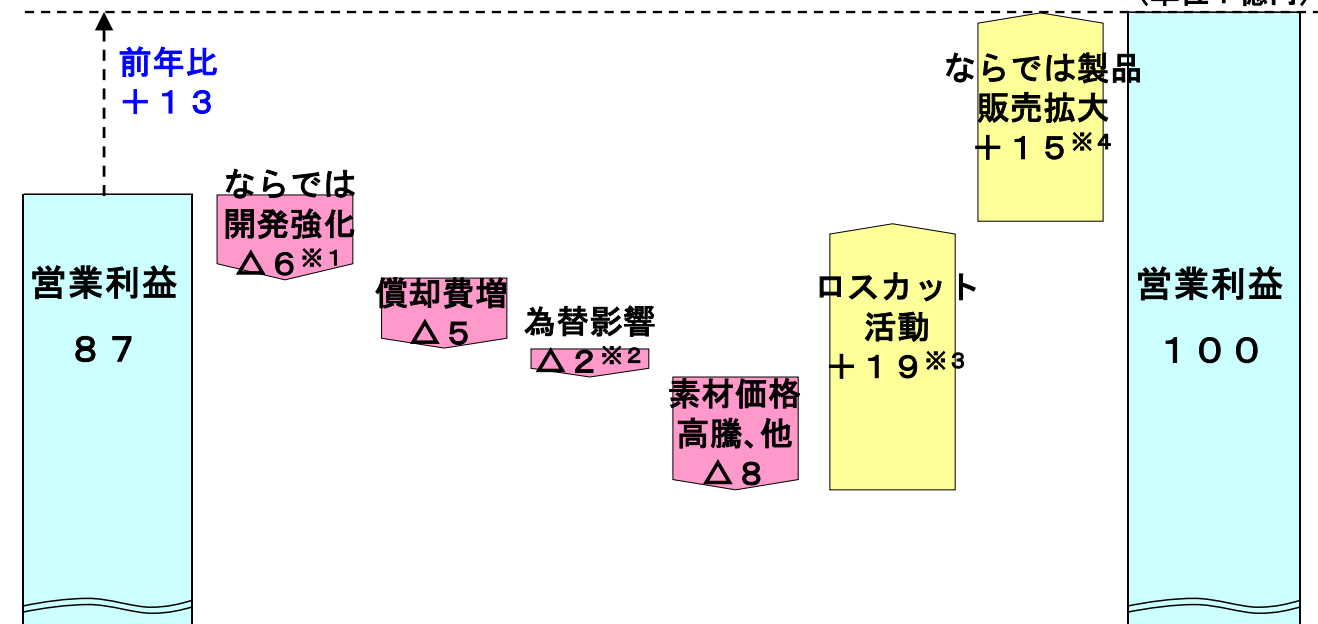


「ならでは製品開発」 2017年度販売計画

	2016年度実績	2017年度予想
①スマートグリッド、次世代変電所用変圧器、再生可能エネルギー関連 <ul style="list-style-type: none"> ・ スマートグリッド 関連 (逆潮流対応電圧調整器、他) ・ 次世代変電所用変圧器 <ul style="list-style-type: none"> …自社製真空バルブ式タップ 切換器と長寿命が スケット採用でメンテナンスコスト8割削減 	161億円	170億円 (+9)
②溶接機、FAロボット関連 <ul style="list-style-type: none"> ・ シンクロフィード GMA溶接システム <ul style="list-style-type: none"> …溶接電源の電流制御とワイヤの出し入れの同期(シンクロ)によりスパッタ極少、ステンレス・亜鉛メッキ・アル材など対応範囲を拡大 ・ ワイヤレス給電システム、AI自動搬送ロボット <ul style="list-style-type: none"> …多少の位置ズレでも85%超の給電効率。複雑な教示なしで自動運転 	65億円	90億円 (+35)
③高周波電源システム関連 <ul style="list-style-type: none"> …微細化加工において高速で変化する装置内の環境にミリ秒単位で追従し、最適な電力供給条件を整える高速整合器や従来比15%消費電力カットの省エネ電源、等 	115億円	210億円 (+95)
その他	12億円	30億円 (+18)
	353億円	500億円 (+147)

2016～2017年度営業利益変動要因

(単位：億円)



2016年度
実績

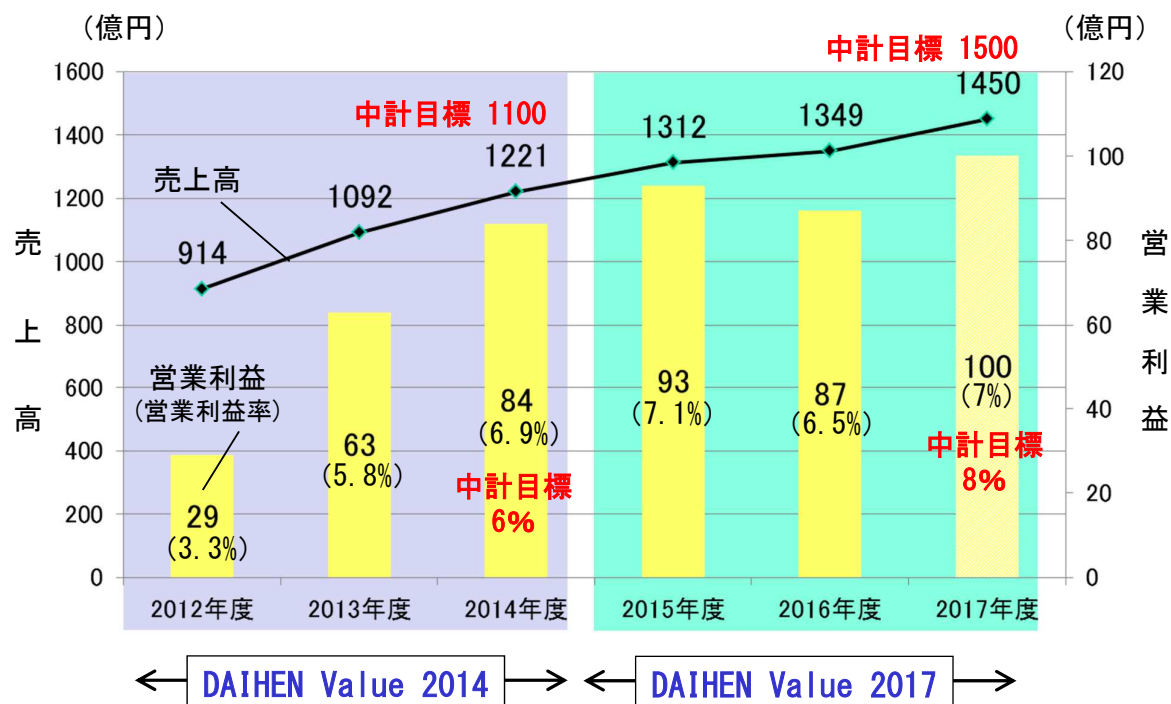
2017年度
予想

- ※1. 開発強化（研究開発費増）： 2016年度 54億円 ⇒ 2017年度 60億円
- ※2. 為替影響： 2016年度平均107円/ドル ⇒ 2017年度 105円/ドル
- ※3. ロスカット活動： 2016年度 91億円 ⇒ 2017年度 110億円
- ※4. ならでは製品販売拡大： 2016年度 353億円 ⇒ 2017年度 500億円

P37

中期計画の業績目標と 利益還元の考え方

中期計画業績目標(売上高・営業利益率)



P39

利益体質の改善に目途をつけ株主還元充実を検討

- ・ これまでは開発費・市場開拓費・設備投資(自動化)社員還元を優先
 ⇒ 耐震補強工事(2016年:28億円、2017年:28億円)も自己資金で賄える
 ⇒ 2017年度は中期計画の仕上げとして、

株主還元の充実(業績連動制<3年平均総還元性向30%目安>移行を検討)へ

(単位: 億円)

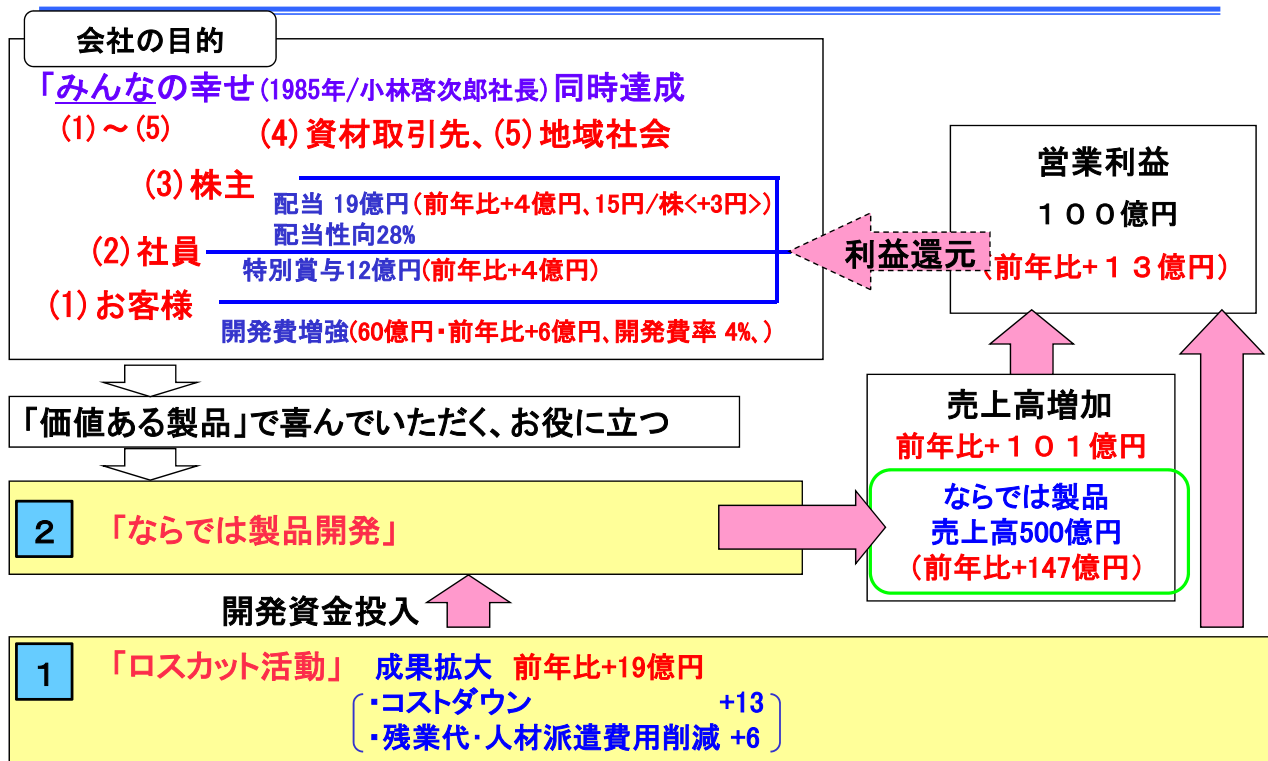
	DAIHEN Value 2014 (目標クリア)		DAIHEN Value 2017			
	2014年度実績	2015年度実績	2016年度実績	2017年度予想	2017年度中計目標	
ロスカット活動の成果	49	67	91	110	90	
研究開発費	48 (4.0%)	52 (3.9%)	54 (4.0%)	60 (4.1%)	75 (5.0%)	
ならでは 製品	190 (15%)	260 (20%)	353 (26%)	500 (35%)	400 (27%)	
市場開拓費	9 (0.7%)	10 (0.8%)	14 (1%)	15 (1%)	40	
設備投資額	37	58	84	100	10	
減価償却費	44	43	45	50	60	
社員へのリターン(特別賞与)	8	8	8	12	45	
1株当たり配当金	8円	12円	12円	15円	15円	
配当総額	10	15	15	19	20	
配当性向	18%	21%	24% ※	28%	30%	

	2014年度実績	2015年度実績	2016年度実績	2017年度予想	2017年度中計目標
売上高	1,220	1,311	1,348	1,450	1,500
営業利益	84	93	87	100 7%	(120) 8%以上
当期利益	58	72	62	70	(70)
ROE	9.8%	11.2%	9.2%	10%	10%以上
自己資本比率	47.7%	47.2%	46.1%	50%	(50%以上)
円/ドルレート	110円/ドル	120円/ドル	107円/ドル	105円/ドル	120円/ドル

※ 自己株式取得を加味した総還元性向 : 40%

P40

2017年度計画(ダイジェスト)



P41

次期中期計画(開発中計第Ⅲ期 2018～2020年度) 策定のポイント

これまでの開発強化の取組みで要素技術・応用技術を蓄積

＜これからの当社の方向性＞
 スマート・エネルギー・マネジメント
 スムーズ・オートメーション
 マテリアル・ファイン・プロセッシング

3つの戦略分野で、
 “総合的”にシステム志向で、
 もっとお客様のお役に立つ

・ 2018年5月開示予定



P42

将来予想に関する注意点

- ・本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し等の将来に関する記述が含まれております。
これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報を基礎とした判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績と大きく異なる可能性があります。
- ・なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は 多数あり、以下のようなものが含まれます。
 - 主要市場における経済情勢及び需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料価格の相場変動
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化